

公益財団法人 水島地域環境再生財団

平成 27 (2015) 年度 事業計画書

1.重点項目

1) 「世界一の環境学習のまち みずしま」実現のために

協議会を継続するとともに、学びのメニューを精査し年間プログラムを整備することで、企業に協賛を呼びかける。その他倉敷市環境学習センターと連携してインタープリター養成講座を開催することで、受け入れ態勢の整備も進める。

9月に予定している修学旅行の受け入れは、協議会のメンバーなどの協力も得ながら、成功させる。視察研修の受け入れも、年間15件の受け入れを目指す

2) 瀬戸内海の再生に向けて

環境省が、本格的に取り組む海底ごみ・漂流ごみ対策は、県単位での取り組みとなることから、岡山県に対し、地域計画の策定、海底ごみ回収処理の効果的な取り組み、発生源対策に関する提案を含めた事業企画を組み、提案する。

環境省中国四国地方環境事務所が取り組む海底ごみ発生抑制を目指した取組みにも協力する。

平成26年度に取り組んだ高梁川河口周辺海域における生きもの調査を継続するとともに、海の環境学習を指導できる人材育成にも取り組む。

3) 環境保健

平成26-28年度にかけて(独法)環境再生保全機構の事業として実施されるCOPD認知度向上と早期発見・呼吸リハビリテーションの普及を地域で連携して進める取り組みを、水島地域でも実施する。平成27年度は、医療従事者向け講座、患者・市民向け講座の開催と、COPDに関する啓発活動、その浸透度をはかる調査を実施する。

4) 新・中長期計画の策定

現行の中長期計画が、2015年度までとなっていることを踏まえ、今年度は1年間をかけて新・中長期計画を策定する。策定にあたっては、理事を中心に策定委員会を立ち上げ、外部からの意見も盛り込みながら進める。

2.個別項目

公1 水島地域の公害経験を活かし、国内外で公害のない、より良い地域を創造することを
目指して、調査研究・提言活動を行う。

(1) 調査研究事業

1) 高梁川・瀬戸内海の研究

海底ごみ・漂流ごみ対策事業が本格化するにあたり、従来の調査研究の知見を活かし、海底ごみの効果的な回収・処理方法についての検討事業や、海底ごみ発生抑制対策について岡山県に企画提案する。

また中国四国地方環境事務所が進める海底ごみ対策の協働取組事業に協力し、瀬戸内海における海底ごみ減量化に向けたとりくみを前進させる。

生物多様性の観点から高梁川河口部干潟など倉敷市沿岸における生きものの実態調査を行う。浅海域の環境の大切さを将来世代に引き継いでいくための環境学習を指導できる人材育成を行う。

2) 地球温暖化問題

平成26年度の岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度に関する評価・分析調査を基に、結果を公表するシンポジウムを開催する。これまでの各事業所からの報告書についての分析や、アンケート結果等を基に、岡山県制度の見直しに対して提案を取りまとめる。

3) 資料保存・活用

これまで整理を行ってきた患者会資料・写真等の目録作りを継続して行うとともに、それらの資料を基に、小学校高学年で活用できる学習プログラム・教材（副読本）開発を行う。

4) 環境保健

平成25年度に作成したCOPD地域連携パンフレットを活用し、効果的な普及啓発事業に取り組む。患者・市民向け講座、医療従事者向け講座、医療関係イベントやマスコミを活用した啓発を進める。これらの取り組みの具体的方針等については、倉敷市保健所、倉敷市連合医師会、岡山県病院協会倉敷支部、呼吸器専門医、医療従事者等の協力を得て設置している検討会で検討しながら進める。

5) コンビナート研究

従来の研究資料の精査や企業関係者へのヒアリングから、水島コンビナートの現状把握を目的とした研究を行い、学習と提言活動に活かす。高梁川流域学校プログラムと連携して実施する。

(2) 提言活動

1) 委員

環境審議会、河川整備検討委員会、新岡山県環境マネジメントシステム外部評価委員会、かんきょうひろば（岡山県環境学習協働推進広場）等の委員を引き続き担い、提言する。

2) パブリックコメント

岡山県内を中心に、新たな開発や施策に対して、積極的にパブリックコメントなどを活用して、意見提出を行う。

公2 水島の公害経験を活かし、国内外で公害のない、よりよい地域を創造することをめざし、公1「調査・研究・提言活動」で得られた知見を活用し、市民や企業、行政、NPO等に学習の場を提供、活動の支援、情報の収集提供をおこなう

(3) 講師派遣

岡山大学実践型社会連携教育、グローバル人材育成授業では、研究員が非常勤講師として、授業の計画・運営を担い、水島の公害経験を基にした人材育成の取り組みを進める。

小中学校、高等学校、大学へ、継続的に講師派遣を行うとともに、新規の派遣校を増やすことを目指す。学年別・分野別に内容を整理し、情報発信を進めることで、より広く派遣先を開拓する。

地域学習（八間川）：小学校3年生

公害教育：小学校5年生

環境の仕事：中学生、高校生

公害の歴史、フードマイレージ：大学・生涯学習

(4) 視察受け入れ、研修

従来行ってきた、川崎医科大学、岡山大学キャンパスアジア、医療生協新人職員研修の受け入れに加えて、地域資源を活かしたプログラムの精査を行い、全国の大学へもPR活動を行うことで、顧客の増加を目指す。

毎年9月に開催してきた大学生のための水島エコツアーを、9月と3月の2回開催として定着させ、より広い顧客の獲得を目指す。

9月に予定されている修学旅行の受け入れを成功させ、今後につなげることを目指す。

(5) 学習講座・啓発

平成25年度に立ち上げた「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」において、水島での学びの内容や実施体制を整備し、寄附講座として企業に協賛を呼びかける。受け入れ側の人材育成を目的としたインタープリター養成講座を倉敷市環境学習センター連携プログラムとして実施する。

平成27(2015)年4月の開校予定の高梁川流域学校との連携を図り、流域における他のプログラムと連動した学びにも対応できるように整備する。

倉敷市環境学習センター連携事業として、高梁川河口干潟における生きものの実態把握調査に合わせて、干潟を中心とした沿岸域の生物多様性について学ぶ体験学習イベントや、八間川の生きもの調べを通じて倉敷の水辺について考える企画を実施する。

(6) 支援連携

1) NPO のパワーアップ

エコらぼ倉敷、倉敷・総社温暖化対策協議会交通システムグループなどと連携し、運営協力をする
ことで、環境保全を目的とした市民活動のレベルアップに資する活動に取り組む。

毎年開催している倉敷市との環境月間における懇談会（6月）、環境基本計画を学び育てる会（9
月）を継続して取り組み、市民のスキルアップを支援する。

瀬戸内の環境を守る連絡会は、事務局の運営委託を受け、調査研究事業を通じて、情報収集・連絡
体制の構築を支援する（12万）。

2) 地域

まちづくりの取り組みの支援を継続して行う。毎年12月に開催している和解記念コンサートは
昨年「まちのコンサート」として位置づけを発展させ、参加者の広がりをめざした。今年度さらに水
島の未来のまちづくりについて語りあえる場となるように、発展させる。

- ・ 水島おかみさん会：水島お雛めぐり、夢 Koi・Koi の事務作業支援を行う（7万）
- ・ 水島中心地域まちづくり研修事業（委託：新市・まちづくり推進課 100万）
- ・ まち・音楽・未来 和解記念コンサート（委託：患者会 20万）

3) 受け入れ体制の強化

「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」のインタープリター養成講座を受講し
た人が、水島での学びの受け入れの解説者として活躍できる場の設定を行う。

(7) 情報発信・収集

1) 発行物：環境改善報告書の継続発行

調査研究結果を基に、環境改善報告書シリーズを継続的に発行する。

財団の出版物に広告の掲載を企業に呼びかける。

みずしま財団たよりの内容、発行回数を見直しを行い、効果的な広報紙を目指す。

これまで発行した報告書など出版物を整理し、関連イベントなどで積極的に販売し、みずしま財団の
広報・宣伝にも生かす。

2) コミュニティメディア

FM くらしき「みみみみずしま財団エコらぼ Friday」により継続的に情報発信を行うとともに、外
部の出演者や情報を寄せてもらえるような呼びかけを行う。

3) ソーシャルメディア

ブログ、facebook 等のソーシャルメディアによる情報発信の活用をさらに広げる。

4) 資料室：資料をつかった公害・環境

資料を使った効果的な展示・教材づくり・学習の実施を行う。また閲覧体制を整え、資料保存から展
示作成、教材・教育プログラムへ反映させる。